



2021 年度事業計画書

期間:2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

1. 活動方針

当協議会は、ドライブレコーダーを活用した交通事故や交通関係トラブルの予防、早期解決などを通じて、安全で安心な交通社会を実現するため、ドライブレコーダーの普及及び利活用を幅広く総合的に推進することを目的としている。

近年、あおり運転等のルールやマナー違反に対する社会的な関心が高まるとともに、高齢運転者の見守りなどの点から、特にマイカー向け(コンシューマー向け)ドライブレコーダーの普及が急速に進んでいる。従来から普及が進んできたタクシー、トラック、バス等の業務用ドライブレコーダーのみならず、マイカー向けドライブレコーダーについても、運転状況を映像として残すことの重要性が社会的に認識されてきたといえる。

ドライブレコーダーの映像は、公正な事故処理等を効率的に進めるとともに、安全運転を促すことにより事故を予防することに役立っている。また、個別の事故の予防や処理の効率化に資するだけでなく、その映像情報やビッグデータは、社会全体としての交通事故の予防や交通安全の向上に寄与するとともに、さらに今後期待される自動運転社会における新たな技術開発の基礎データや自動運転車事故のメカニズムの解明など、新たな役割も期待される。

こういった社会的な背景を受け、2021 年度においては、当協議会が推奨するドライブレコーダーについて、関係する仕様のガイドライン等を引き続き定めるとともに、市販ドライブレコーダーの製品テストの充実・公表により、ドライブレコーダーの基本的な性能、信頼性の向上等を促す施策を推進する。

また、損害保険会社を中心に、通信機能を備えたドライブレコーダーの普及が進んでいることから、ドライブレコーダーによる各種情報提供や事故自動通報など、テレマティクスや IoT サービスとしての活用についても検討を進める。さらに、社会全体で大量に記録される映像情報のビッグデータの交通安全への活用についても、技術面やプライバシーなどの側面からの研究調査を行い、ドライブレコーダーのさらなる有効活用が図られるよう目指していくこととする。

コロナ対策として、多人数の会合を避けるため、Web 会議を利用することが一般化している。当協議会においても、Web 会議により部会活動を再開するとともに、理事会、総会、運営委員会についても、当分の間、Web 会議システムにより運営していくこととしている。

2. 活動主要項目

(1) ロードマップの作成

ドライブレコーダー普及の背景となっている映像情報化社会と自動運転時代の到来を想定しながら、通信型ドライブレコーダーの伸展も見据えつつ、ドライブレコーダー関連製品の発展とドライブレコーダー協議会の活動について、ワーキンググループを設け、中期のロードマップを 2021 年度半ばまでに作成する。

(2) 製品テスト

2020年度は、当協議会においても、新型コロナウイルス蔓延に伴う緊急事態宣言発令後、3密(密閉、密集、密接)を避ける観点から、会合等はweb会議等に切り換えて活動を行っているが、毎年恒例の「製品テスト」会は、その活動の性格上、会員を招集して実施することになるため、3密の観点からやむなく中止とせざるを得なかった。

また、活動の推進役である幹事が所属先の人事により部会から離れることとなり、2020年度下期においては活動が停滞してしまった。2021年度は、新任の担当理事のもと、新たに体制を整え、当面続くと予想される新型コロナウイルス環境での「製品テスト」の意義を考え直し、ドライブレコーダーに求められる姿を「製品テスト」という切り口で啓蒙していくという活動も視野に入れたい。

ワクチン接種が順調に進み、企業活動が以前のように戻るようであれば、恒例の「製品テスト」の実施も考えられることから、その準備と実施できない場合の代替活動も議論して行きたい(一例として、製品テストに用いる機材を参加会員に巡回貸し出しを行ってデータを収集し、集計を行う等)。

市場に流通する製品について、会員内外を問わず、製品に記載の内容と実機の性能について確認を行う。また、公平かつ効率的に行うため、テスト項目の見直し、必要な機材の導入、改良、テスト方法の見直しも行う(実施対象製品は、会員からの提供及び市場流通品を購入して実施)。

(3) データ活用

2020年2月以来、わが国で急激に拡大した新型コロナウイルス感染の防止対策上、対面式会議を回避する基本方針維持がそのまま部会活動休止状態に陥った事態を猛省している。現状のコロナ禍は、各種専門的予測では近未来収束の見通しはなく、数年先まで続く見通しなので、オンライン・リモート形式のコミュニケーション方式中心にメンバー相互コラボレーションと創意工夫で諸困難を克服し、内容本位の部会活動を展開する所存である。

当部会は、映像記録型ドライブレコーダーを駆使した古典的なニアミス分析や事故分析などの Reactive(対応型)分析を否定はしない。しかし、それよりも映像と音声の優れた記録機能を活かした数多の危険な走行場面において、咄嗟の機転で安全運転を継続維持したドライバーの事故回避運転技能や運転情報処理術などの創意工夫術を発見することを重視して発足した。正にドライブレコーダーの創造的活用としての Proactive(積極型)分析である。具体的には、会員企業が保有するドライブレコーダーデータから、事故寸前状況で運転者の機転や優れた運転技能で危機を乗り切った事例など、他の運転者に参考になるポジティブ場面の具体的な諸条件の記録・分析を行い、新しい発見を目指している。

一定数の事例が集まり、横断的意味合いを抽出するなど、積極的成果がまとめれば公開する。なお、この文脈で既に成果を挙げている国土交通省自動車局に設置されたドライブレコーダー関連専門委員会の実績を参考としていることを付記する。

また、交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度により会員企業から提供されたドライブレコーダーデータの積極的な活用を図るため、補償金規程の見直しを行う。さらに、データ利用における個人情報保護に関する勉強会を企画し、会員の認識を深める。

(4) 推奨ガイドライン作成

推奨ガイドライン作成部会では、基本活動となるドライブレコーダーに関連する機能についてのガイドライン検討の継続、昨年度より重点活動とした救急ヘリ病院ネットワークの D-Call Net 研究会との連携、ドライブレコーダーを第2種 D-Call Net(後付け自動車事故自動通報システム)に適用する場合における仕様の取りまとめと公表を目指すこととする。

また、記録媒体(SD カード)、通信、AIについては、技術・情報の共有などを図りながら、今後の活動の方針を探る。その他、新しい技術への積極的なアプローチを行い、ドライブレコーダーの未来の技術・活用などについて、勉強会として会員への提供・共有を図っていくこととする。

(5) ADAS

昨年度は、2019 年度作成の ADAS(高度運転支援システム: Advanced Driver Assistance System)ガイドライン(第 1 次)を見直し、文言の統一や内容の肉付けをし、ガイドラインを8月の運営委員会で完成し、9 月 2 日に国交省に報告した。マーケティング活動はカメラ付き ADAS 車とドライブレコーダーの実装率を調べた。スーパーの駐車場(休日と平日)と横浜の住宅地での累計 626 台の調査をした。一方、車ディーラーの店長にヒアリングをし、安全装置が自動運転 ADAS、自己防衛装置がドライブレコーダーという分類概念を教わり、最近は両方を付ける新車販売が多いと聞いた。

次期機能を検討するセミナーは実施できなかったが、部会主催のドラ協全会員に向けた ADAS セミナーとして、3 月 26 日に ADAS 機器に関する説明会と昨年無償提供された ADAS 機器使用報告会を実施した。

2021 年度はガイドラインのアップデートをしていくこととしている。また、将来の ADAS 機能付きドライブレコーダーとしての DMS(ドライバーモニタリングシステム)等の可能性を探るセミナーを開催する。さらに、自己防衛装置としての ADAS 機能付きドライブレコーダーのあり方などを検討する。

(6) 広報

2020 年度はコロナ禍の影響からマスコミ対応が減少したが、調査会社等を含め、出荷実績、商品動向、市場動向等に関する問い合わせは増える傾向であった。また、国土交通省のドライブレコーダー普及啓発ちらし、普及啓発動画の制作に協力した。

また、かねてから懸案だったホームページの全面的なリニューアルを 2020 年度に実施し、会員間の情報共有や、一般の方への情報提供をより活発に行えるようにしたので、2021 年度は新しいホームページを活用した活動を軌道に乗せ、協議会の活動を活発化させるための支援を行っていくこととしている。

(7) 技術広報

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、協議会外部への情報発信(講演、寄稿、情報交換会など)がなく、特筆すべき活動はなかった。

今後、新型コロナウイルス感染症の状況が好転し、外部への情報発信の機会を得られるようになれば、従前同様に協議会やドライブレコーダー機器、ドライブレコーダーによる映像や事故の分析などの情報を発信していくこととしている。また、広報部会とも随時連携を取って活動する。

(8) 「ドラプリ 2021」開催

昨年のドラプリ 2020 は、自動車技術会画像情報活用部門委員会の公開委員会と共催により、オンライン形式により開催した。参加者は自動車技術者関係を含めて多岐にわたり登録者数 250 名強と盛況であった。また昨年は副題を「ドライブレコーダーの過去・現在・未来」として、広く技術の動向と活用の展望について情報交換を行った。

今年のドラプリ 2021 は、昨年の経験を踏まえて、よりオープンな情報交流の場としてオンライン形式で開催する。講演内容は、最新の技術動向と活用について、特に AI 活用とテレマティクス等を中心に実行委員会で企画する。

(9) 個人情報保護

当会の活動に関し、個人情報保護法第 20 条の規定に定められた組織的、人的、物理的及び技術的安全管理措置について個人情報保護基本方針を作成し、ドライブレコーダー補償金制度、ドライブレコーダーデータの利用等における個人情報保護を行う。

(10) 他機関との連携・協力

ドライブレコーダーに関連する他機関・団体との連携・協力を積極的に行い、連携すべき各種機関・団体との情報交換の機会を計画的に設けてきたところである。今後は、損害保険関係団体、画像処理団体等との提携を図っていく。

また、2021年7月7日に行われる自動車技術会映像情報活用部門委員会主催のフォーラム「映像情報活用の最前線」に協賛し、同フォーラム内で、法人会員メーカーのドライブレコーダー紹介を実施する。秋に開催予定の「ドラプリ2021」においても、昨年同様、自動車技術会映像情報活用部門委員会との共催実施を検討する。

3. 部会

(1) 製品テスト部会

部会長	小野 治良(株式会社慶洋エンジニアリング)																
副部会長	(募集)																
幹事	(募集)																
実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会員各社製品(特に新製品)の機能や仕様表記確認 2. 会員外製品の購入・性能確認・仕様表記確認 3. 既存テスト治具(360°画角測定器・LED信号エミュレーター)のブラッシュアップ、作業マニュアルの整備 4. 検討課題(精度アップ・効率)の対策と新規治具の作成の検討 5. 製品テスト試験要領書の内規の見直し 																
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存治具のブラッシュアップ及び新たな治具の作成 2. 自粛解除であれば年度後半に製品テスト実施へ 																
予算	<p>99万円</p> <p>※予算明細</p> <table> <tr> <td>360°画角測定器保管・運搬収納具作成</td> <td>¥300,000</td> </tr> <tr> <td>画角測定器2号機作成</td> <td>¥300,000</td> </tr> <tr> <td>試験環境整備(試験機動作電源・1/100秒計購入)</td> <td>¥80,000</td> </tr> <tr> <td>会員外製品購入費用</td> <td>¥100,000</td> </tr> <tr> <td>テスト会場借料</td> <td>¥100,000</td> </tr> <tr> <td>部会開催会場借料(10回)</td> <td>¥100,000</td> </tr> <tr> <td><u>交通費</u></td> <td><u>¥10,000</u></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>¥990,000</td> </tr> </table>	360°画角測定器保管・運搬収納具作成	¥300,000	画角測定器2号機作成	¥300,000	試験環境整備(試験機動作電源・1/100秒計購入)	¥80,000	会員外製品購入費用	¥100,000	テスト会場借料	¥100,000	部会開催会場借料(10回)	¥100,000	<u>交通費</u>	<u>¥10,000</u>	合計	¥990,000
360°画角測定器保管・運搬収納具作成	¥300,000																
画角測定器2号機作成	¥300,000																
試験環境整備(試験機動作電源・1/100秒計購入)	¥80,000																
会員外製品購入費用	¥100,000																
テスト会場借料	¥100,000																
部会開催会場借料(10回)	¥100,000																
<u>交通費</u>	<u>¥10,000</u>																
合計	¥990,000																

(2) データ活用部会

部会長	堀野 定雄(神奈川大学)
幹事	-
実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会員企業の保有データからポジティブ場面の調査・発掘 2. 交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度補償金規程の見直し 3. データ利用における個人情報保護に関する勉強会の開催

実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典的な Reactive 分析に加え、創造的な Proactive 分析活用を推進する。会員企業の保有データから危険場面で咄嗟の機転で安全運転を維持したドライバーの事故回避運転技能や運転情報処理術などの創意工夫術を発見するポジティブ場面の発掘を行う。 2. 交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度により会員企業から提供されたドライブレコーダーデータの積極的な活用を図るため、補償金規程を見直す。 3. データ利用における個人情報保護に関する勉強会の企画・運営を行う。
予算	5万円

(3) 推奨ガイドライン作成部会

部会長	小林 恭二(セルスター工業株式会社)
副部会長	久保 登(東京大学)
幹事	上岡 裕一(キオクシア株式会社):SD カード担当 吉澤 成一郎(プレミアアイド株式会社):D-Call Net 研究会対応担当
実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドライブレコーダーの追加要件ガイドラインの策定 2. ドライブレコーダーからの、出力データの標準化・公表 3. D-Call Net 研究会連携(後付け自動車事故自動通報システム仕様検討) 4. SD カードに関するガイドラインの検討 5. 通信/AI 技術に関して、技術情報の展開と、今後の活動方針の確立
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドライブレコーダーの追加要件ガイドラインの策定・公表を目指す。 2. ドライブレコーダーからの出力データの標準化・公表 3. 後付け自動車事故自動通報システム仕様検討を行い、公表を目指す。 4. プレミア・エイドのコールセンター見学会の実施 5. 一般財団法人日本品質保証機構(JQA)、新車載 EMC 棟見学会の実施 6. 新技術の勉強会の開催
予算	6万円

(4) ADAS部会

部会長	浮穴 浩二(UKコンサルタント)
副部会長	實川 裕敏(ジャパン・トゥエンティワン株式会社)
幹事	小林 恭二(セルスター工業株式会社) 中村 良幸(株式会社カーメイト) 富永 創樹(ジャパン・トゥエンティワン株式会社)
実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADAS ドライブレコーダーのガイドラインのアップデート 2. ADAS ドライブレコーダーのマーケティング活動、及びセミナー開催 3. ADAS ドライブレコーダーの性能評価と認証の仕組みの検討
実施計画	1. 部会開催時にガイドラインの見直しをベースで行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 2. ADAS 機器(ドライブレコーダー含む。)の認知向上に寄与する広報活動 3. ADASドライブレコーダーの性能評価と認証の仕組みの検討 4. 自己防衛装置としての ADAS 機器として将来ドライブレコーダー付加機能として DMS などの可能性セミナーなどを開催
予算	10 万円(セミナー外部講師費 2 人分)

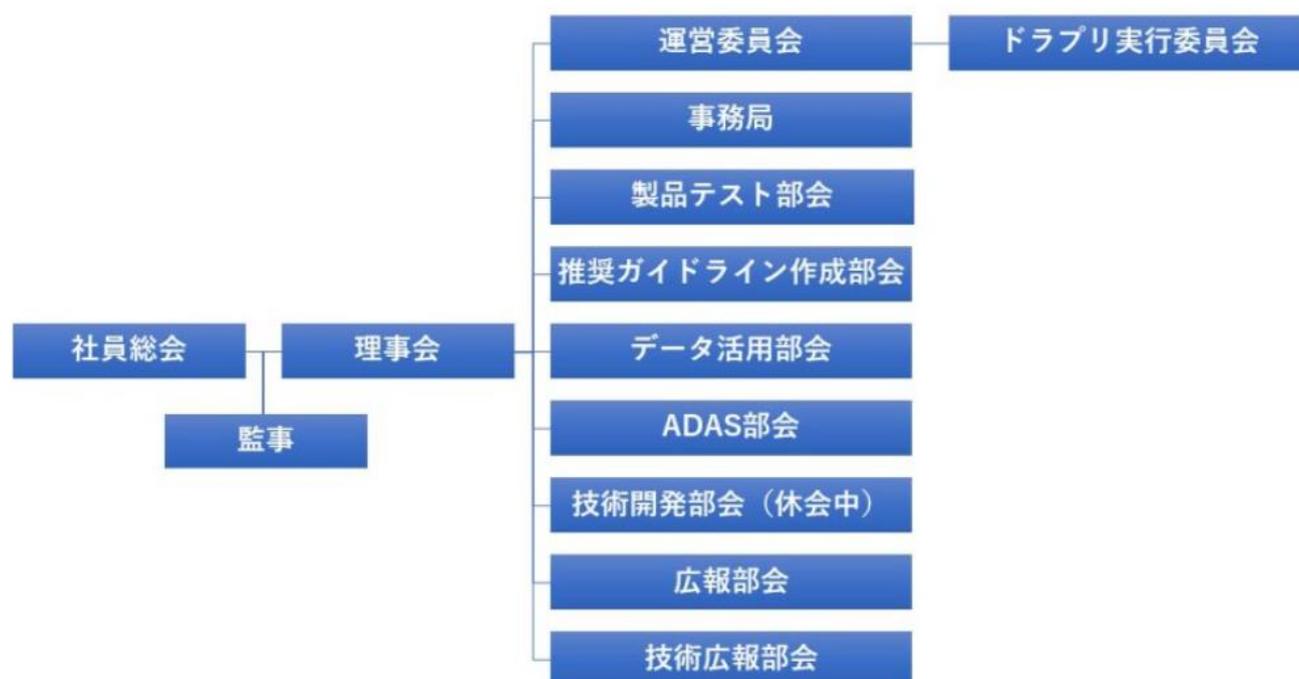
(5) 広報部会

部会長	鳥塚 俊洋(株式会社JAFメディアワークス)
副部会長	久保 登(東京大学)
幹事	-
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> 1. マスコミ等からの取材対応 2. ホームページの運営及び整備 3. ニュースリリース等の情報発信
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 事務局と連携し、素早い対応を実施する。 2. ホームページの活用を進め、必要な追加整備を行う。 3. PR サービスを活用したニュースリリースの発信体制を構築する。
予算	10 万円 (注)ホームページ改修・保守・管理は、広報部会外の別科目で 36 万円

(6) 技術広報部会

部会長	久保 登(東京大学)
副部会長	-
幹事	-
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> 1. ドライブレコーダーの技術的な情報発信 2. ドライブレコーダーデータについての情報発信 3. ドライブレコーダーデータを用いた事故解析手法等の情報発信 (上記はいずれも、講演、寄稿、情報交換会などの形を想定する)
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 外部からの入来に応じて対応する。 2. 将来的には事故解析手法などの有料セミナー開催等も構想する。
予算	10 万円

4. 組織体制



(1) 社員総会

社員総会を 2021 年 6 月 24 日に開催する。(注: 諸般の事情により 2021 年 8 月 25 日に開催する.)

会員名簿

株式会社アンバレラ・ジャパン

MS&AD インターリスク総研株式会社

株式会社 INBYTE

AOS データ株式会社

株式会社 NP システム開発

エコモット株式会社

株式会社エフ・アール・シー

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

大橋産業株式会社

株式会社カーメイト

キオクシア株式会社

クリムゾンテクノロジー株式会社

株式会社慶洋エンジニアリング

KDDI 株式会社
株式会社コムテック
コーンズテクノロジー株式会社
株式会社ザクティ
ジャパン・トウエンティワン株式会社 東京本社
SOMPO リスクマネジメント株式会社
株式会社 JAF メディアワークス
スマートモバイルコミュニケーションズ株式会社
セルスター工業株式会社
株式会社 TCL
東海クラリオン株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
ドコモ・システムズ株式会社
株式会社鳥取スター電機
トム通信工業株式会社
豊田通商株式会社
トヨタモビリティパーツ株式会社 大阪支社
一般財団法人日本品質保証機構
パナソニック カーエレクトロニクス株式会社
古野電気株式会社
株式会社プレミア・エイド
株式会社プロジェクト琉球
株式会社モービルアイジャパン
矢崎エナジーシステム株式会社
ヤマトシステム開発株式会社
株式会社ユピテル
株式会社リムライン
ローム株式会社
株式会社ワーテックス

個人会員 16 名

青木 宏文(名古屋大学)

石川 博敏(救急ヘリ病院ネットワーク)

浮穴 浩二(UK コンサルタント)

北村 憲康(東京海上日動リスクコンサルティング株式会社)

久保 登(東京大学)

小林 敏雄(東京大学)

島崎 敢(名古屋大学)

辻村 春樹(株式会社 T.コーポレーション)

永井 正夫(東京農工大学・日本自動車研究所)

堀野 定雄(神奈川大学)

道辻 洋平(茨城大学)

宮崎 拓郎(群馬大学・株式会社 NTT データアイ)

毛利 宏(東京農工大学)

吉本 堅一(東京大学)

龍 重法(神奈川大学)

渡部 大志(埼玉工業大学)

2021 年 4 月時点

(2) 理事会

2021 年 5 月及び 2022 年 3 月に定期理事会を開催する。

理事 10 名 監事 2 名 役員合計 12 名

会長	宮崎 拓郎	国立大学法人群馬大学 客員教授 株式会社 NTT データ アイ 特別参与
副会長	鳥塚 俊洋	株式会社 JAF メディアワークス IT メディア部 部長
理事(経理担当)	竹村 公一	SOMPO リスクマネジメント株式会社 モビリティコンサルティング部 特命部長
理事(特命担当)	辻村 春樹	株式会社 T.コーポレーション 代表取締役
理事(ドラプリ・データ基盤担当)	永井 正夫	東京農工大学名誉教授、日本自動車研究所顧問
理事(製品テスト担当)	山口 慎吾	株式会社コムテック 東日本営業部長
理事(補償金制度担当)	井脇 太郎	東京海上日動火災保険株式会社 東京中央支店 課長
理事(データ活用担当)	堀野 定雄	神奈川大学 工学研究所 高安心超安全交通研究所(KU-WIRF)

理事(ガイドライン担当)	吉澤 成一郎	株式会社プレミア・エイド 代表取締役
理事(会員担当)	龍 重法	神奈川大学 工学研究所 高安心超安全交通研究所(KU-WIRF)
監事	金子 由里子	あい会計事務所 公認会計士・税理士
監事	吉本 堅一	東京大学名誉教授 工学博士

(3) 運営委員会

運営委員会は、理事・監事及び部会長より構成し、毎月1回、会長を中心にドライブレコーダー協議会の日常的な運営事項を協議する。必要に応じ、会長が指名する者が協議に参加する。

(4) ドラプリ実行委員会

運営委員会のもとに、ドラプリ実行委員会を設置する。ドラプリ実行委員会に委員長を置く。ドラプリ実行委員会は、委員の募集を行った上で、テーマの吟味、演者の募集・依頼及び当日の運営等全般を執り行う。運営に当たっては、前年の反省を踏まえて改善を図る。

(5) 事務局

一般社団法人ドライブレコーダー協議会 事務局

〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 3 番 7 号 株式会社審調社内

TEL:03-3767-0451 FAX:03-3767-8590 e-mail:jdrc@scs-21.co.jp

以上